

第6学年 国語科学習指導案

日 時 平成20年10月8日(水) 6校時
児 童 男8名 女8名 計16名
指導者 瀬川 貴光

- 1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう
教材名 「平和のとりでを築く」/「自分の考えを発信しよう」(光村図書 6年下)

2 単元について

(1) 能力について

第5・6学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。

本単元は「平和のとりでを築く」と「自分の考えを発信しよう」「インターネットと学習」の3部構成となっている。説明文、「平和のとりでを築く」の読むことの主な指導事項は、「平和のとりでを築く」という題名が意味することに注意しながら読むこと(読イ)及び、筆者の考えをまとめ、自分はどのように考えるかをまとめること(読エ)である。文章構成をとらえ、叙述を解釈しながら筆者の伝えたいことに対しての考えをまとめる力を育てることをねらいとしている。

(2) 児童について

児童はこれまでに「ごみ問題ってなあに」(5年上)で、事実と意見を区別しながら読む学習を行ってきた。また、「生き物はつながりの中に」(6年上)では、文章構成や文末表現に着目して要旨をとらえるとともに、筆者の考えについて自分なりの考えを持つ学習を行ってきた。

今年4月に実施された市標準学力状況調査では、領域別にみると「説明文の内容を読み取る」の平均正答率は60.9%であり、期待正答率68.8%に比べ低い状況にある。特に「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読む」の正答率が43.8%、「文章構成をとらえる」の正答率が50%と低く、説明文の内容理解が弱い傾向明らかになっている。

(3) 教材について

本教材は、第二次世界大戦で広島に原子爆弾が投下されたことによって「傷だらけ」となった物産陳列館が多くの人々の平和を願う心によって、世界遺産「原爆ドーム」となった経緯を述べた文章である。文章は、「筆者の思い、原爆ドームがたどった歴史、世界遺産への道のり、まとめ」と大きく4つにまとめて構成されており、編年体の説明により児童にも理解しやすい構成といえる。日本人として是非知っておきたい史実と、それが“世界”の“遺産”となった意味について筆者の考えを丁寧に読み取っておきたい。また、それにより、いかに多くの人々が現在において「平和」を希求しているかが分かり、続く活動への動機を与えることにもつながる。

(4) 指導にあたって

本単元「平和のとりでを築く」は、「原爆ドーム」がたどった歴史と、「世界遺産」登録までの人々の思いに着目させながら読み取らせ、筆者の訴えたいことに迫りながら自分の考えをまとめることを目的としている。本時では以下の点に留意して学習を進めていきたい。

第一次では練習教材を使いながら、説明文の学習に必要な指示語の確認、文末表現や自分の考えの表出を行わせたい。

第二次では「説明文学習の手引」を元にしながら、日本人として知っておかなければならない史実と、それが世界遺産になった意味についての筆者の考えを読み取らせたい。学習の手引の活用場面では、文末表現の変化に着目させたり、言い換えの言葉を密語りする活動を通し、筆者の訴えたい事柄が㊸段落に集約されていることに気付かせたい。さらに、現代において多くの人々が「平和」を希求し、いかに大切に感じているかを理解し、自分の考えを発信するという活動への動機付けにつなげていきたい。

第三次では筆者の考えを受けながら、平和や戦争に対する資料を集め、相手意識を持って発信しようとする活動を行わせたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ◎筆者が訴えたい事を読み取り、それについて自分の考えを持つ。
- ◎「平和」についてさらに考えるために調べたり話しあったりし、深まった考えを分かりやすく組み立てて書いて交流する。また、今後も考え続ける意欲を持つ。

(2) 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
筆者の訴えを受けて自分なりの考えを持ち、「平和」について関心を持って読んだり、話し合ったり、書いたりしようとしている。	筆者の考えをまとめ、自分はどうにか考えるかを明確にしながら読んでいる。(読エ)	自分の考えを明確に表現するために、材料を選びなおしたり、効果的な文章の組み立てを考えたりしている。(書イウ) 事実と意見を区別して書いたり、対立する意見に反論を述べたりしている。(書エ)	文章にはいろいろな構成があることを知り、適切なものを考えている。(言オ(ア))

4 単元の指導計画 (14 時間)

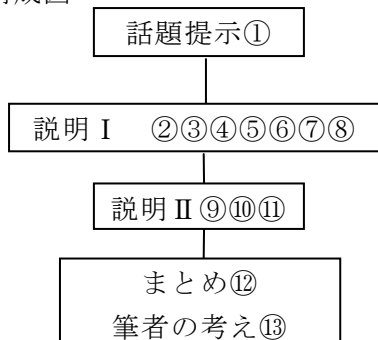
平和のとりでを築く				
過程	時	学習活動	指導事項・留意点	評価規準
第一 次	1	○練習教材に取り組む	・指示語、文末表現に着目して、自分の考えが持てるかどうか確かめる。	【関】戦争や平和に関して、ニュース番組で視聴したり新聞で読んだりしたことを進んで発表している。
	2	○学習の構えと見通しを持つ。 ・単元名、リード文、題名から、学習の構えを持つ。 ・教科書の単元構成に目を通し、学習の見通しを持つ ・「平和のとりでを築く」を読んだ感想を書く。	・事前に学習内容を知らせ、戦争や平和に関するニュース番組に注意させておく。 ・本単元が4つに分かれて構成されていることをとらえさせる。	

第二次	3	<p>○「平和のとりでを築く」を読み、筆者の伝えたいことを考える。</p> <p>・題名と①段落から、読みの課題を確認し、全文を読む。</p>	<p>・「原爆ドームはユネスコの世界遺産への仲間入りを果たすまでにどのような年月をたどったのか」「『平和のとりでを築く』で、筆者は何を伝えたいのか」、という課題を共通認識させる。</p>	<p>【関】筆者の訴えについて自分なりの考えを持つようとしている。</p>
	4	<p>○②～⑧から「原爆ドーム」がたどった歴史を読み取り、それに対する自分の考えを持つ</p>	<p>・指示語が何を指し示しているのか正確にとらえさせる。</p>	<p>【読】筆者の考えと事例を捉え、写真への感想を語り、自分の意見や感想を持っている。</p>
	5	<p>○⑨～⑪から「原爆ドーム」が世界遺産に指定されていく過程と筆者の思いを読み取り、自分の考えを持つ。</p>	<p>・「規模が小さいうえ、歴史も浅い」遺跡である原爆ドームが世界遺産になったのはなぜか、そこに伺える世界の人々の思いを読み取らせる。</p>	
	6 (本時)	<p>○⑫⑬を読み、筆者の伝えたいことは何かを考える。</p>	<p>・文末表現に着目させ、最後の一文だけ「一だ。」で結ばれているわけを考えさせる。</p>	
	7	<p>○筆者の伝えたいことに対する自分の考えをまとめる。</p> <p>○自分の読みを見直し、筆者の伝えたいことに対しての考えをまとめる。</p>	<p>・「筆者の思い - 原爆ドームがたどった歴史 - 世界遺産への道のり - まとめ」という文章構成を確認し、読み取った内容を書きまとめさせる。</p>	
8	<p>○友だちの考えを聞き、自分の考えをさらに深める。</p>			
自分の考えを発信しよう				
第三次	9	<p>○筆者の伝えたいことを元に、戦争や平和をめぐる問題について考え、話し合う。</p>	<p>・前時までの学習や資料をきっかけにして、社会の歴史学習や平和に関する学習を関連付け問題意識を高める。</p> <p>・課題を具体的にし、一人ひとりが情報を集め考えをまとめられるようにする。</p> <p>・まとまり毎に見出しをつけ、効果的な組み立てを考えていくようにさせる。</p>	<p>【関】「平和のとりでを築く」の内容を意識しながら、「平和」について読んだり、話し合ったり、書いたりしようとしている。</p> <p>【書】自分の用紙に説得力を持たせるために必要な材料集めをしている。</p> <p>【書】具体的事例と意見、反対意見などを、読み手に分かるように書いている。</p>
	10	<p>○現在の時点で考えていることを「仮の要旨」としてまとめ、それに説得力を持たせる材料を集める。</p>		
	11	<p>○集めた材料を元に、「仮の要旨」を「確定した要旨」にまとめ意見文として書き表す。</p>		
	12	<p>○自分の考えを書きまとめる。</p> <p>○書きまとめたものを推敲し発信する。</p>		
	13			
	14	<p>○この単元学習を振り返る。</p>	<p>・「インターネットと学習」を読んで、内容を確認する。</p>	<p>【関】自分の学習に対して達成感、満足感を感じたり、学習した意味を見出したりしている。</p>

5 第6学年「平和のとりでを築く」教材構造図

まとめ		説明 2			説明 1							話題提示	構 落	
⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①		形式段落
く	平和のとりでを築く 世界の人人々に警告する記念碑	世界遺産決定	世界遺産の制度	原爆ドームを世界遺産へ	補強工事	永久保存へ立ち上がる人々	「存続」か「取り壊し」かの議論	傷だらけの建物	原子爆弾投下	市民に親しまれる建物	物産陳列館	原爆ドームに対する筆者の思い		小見出し
	原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。	決定の知らせが届いたとき、私は、世界の人人々の、平和を求める気持ちの強さを改めて感じた。 未来の世界で核兵器を二度と使ってはいけない、いや、核兵器はむしろ不必要だと、世界の人人々に警告する記念碑なのである。	世界遺産は、文化遺産と、自然遺産を未来へ向けて大切に守っていくために、ユネスコと世界の国々が調査し、指定していく制度。	日本が1992年（平成4年）にユネスコの世界遺産条約に加盟した直後から、広島では、原爆ドームを世界遺産に小という動きが高まった。	補強工事は何度か繰り返し返され、今の形を保っている。	日記に後押しされて、市民も役所も「原爆ドーム永久保存」に立ちあがった。	原爆ドームを保存するか、取り壊してしまうか、戦後間もないころの広島では議論が続いた。	建物は、ほぼ真上からの爆風を受けたため、全焼はしたものの、レンガと鉄筋の一部は残った。	1945年（昭和20年）8月6日、午前8時15分広島市に原子爆弾が投下された。	建物は多くの市民に親しまれていた。	物産陳列館として、1915年（大正四年）に完成した。	原爆ドームが世界遺産への仲間入りを果たした時、私はこの傷だらけの建物がたどってきた年月を思わずにはいられなかった。	段落の要点	
	とりで・世界の遺産・なのだ	それは のだった		この市民中心の活動	このことが	きっかけ・十数年たって・後世に	ま	むごたらしいありさ	とどめる	それは・この建物に	この建物は	この原爆ドームがその年月	着目させたい言語	

段落構成図



要旨
痛ましい姿の原爆ドームは、原子爆弾のもたらす惨害を無言で告げ、未来の世界で核兵器を二度と使ってはいけないと警告する記念碑である。
原爆ドームは、それを見る人々の心に、「核兵器の使用禁止、恒久平和を願う平和を守る」という強い意志を築くための世界の遺産なのだ。

6. 本時の指導

(1) 目標 文章構成や重要語句と叙述の変化をもとに、筆者が伝えたいことを読み取ることができる。

(2) 指導の構想

本時は筆者の原爆ドームに対する思いと、読者に伝えたいことを読み取る時間である。文章構成を振り返ることでどの段落に筆者の考えが表れているかを把握させたい。また、『記念碑』や『世界の遺産』という重要語句の意味や叙述の変化の意味をとらえさせ、筆者の主張が何であるかを把握させたい。

(3) 展開

段階	学習活動	教師の支援	評価
つかむ5分	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">筆者はどんな考えを持ち何を伝えたいのだろう。</div> ・⑫⑬段落を音読する。	・文章全体の構成から、筆者の伝えたいことが⑫⑬段落に書かれていることを確認する。 ⑫⑬段落を音読する ・一人読みの後、指名読み	
	3 ⑫⑬段落の叙述内容を読み取る。 ・「原爆ドーム」を言い換えている言葉を見つけて線で囲みましょう。 ・これまで原爆ドームはどのような名前で登場してきましたか。 ・⑫⑬段落の中で筆者が伝えたい事が強く表れている一文にサイドラインを引きましょう。	・「記念碑」「世界の遺産」 ・「建造物」「世界遺産」(「記念碑」「世界の遺産」) ・核兵器はむしろ不必要だと、世界の人々に警告する記念碑 <u>なのである。</u> ・原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産 <u>なのだ。</u> 文末表現「～なのである。」と「～なのだ。」に着目し、どちらがより <u>筆者の考えが強く表れているか</u> 考えさせる。	○筆者の伝えたい内容にサイドラインを引くことができる。 ○重要語句や叙述の変化から筆者が読者に伝えたいことを読み取ることができる。
	4 筆者の伝えたいことをとらえる。 ○筆者の伝えたいことを自分の言葉で書きまとめる。 ・誰に対して、何を伝えたいのでしょうか。最後の一文に続けて、「しかし…」で書きはじめ、「だから…」で書き終える文を作りましょう。	・第⑬段落の最後の一文に続けて、「しかし…」という書き出しで今の世の中の現状を書きまとめ、次の「だから…」では筆者が誰に対して何を伝えたいのか筆者になり代わって書くことを示す。	

<p>ふかめる 35分</p>	<p>しかし、今の世界では各地で紛争が絶えず行われている。 だから、世界中の人々に、核兵器を持たず、戦争を行わない、平和な世界を守り続けるのだという強い気持ちを持ってもらいたいのだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者の立場に立ち、読者を意識しながら、世の中の現状と筆者の主張部分を自分なりに考えられるようにする。 ・ 上位の児童には、考えの元になる根拠も記入させる。 	<p>◎ 読者を意識しながら、筆者の伝えたいことを書くことができる。</p>
<p>まとめる 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣の人と考えの交流をする。 ・ 自分の考えをノートに書き表す。 <p>5 学習のまとめをする 読みの視点を振り返る</p> <p>6 次時の学習について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣の人と筆者の考えを交流し合いいくつかのグループに発表させる。 ・ ⑫⑬段落を音読する（一斉読） ・ 学習を振り返ってノートに記入する。 	<p>○ 本時のねらいにそって振り返り、書くことができたか。（ワークシート）</p>


(4) 具体の評価基準

A：根拠を明らかにして、筆者の伝えたいことをまとめることができる。

B：重要語句や叙述の変化をもとにして、筆者が読者に伝えたいことをまとめることができる。

Cへの配慮：大事な部分に線を引かせたり、重要語句を見つけたり、友達の発表を聞きながら、まとめを書かせる。

(5) 板書計画

<p>しかし、今の世の中には世界各地での戦争や紛争が数多く起こっている。 だから、世界中の人々に、核兵器を持たず、戦争を行わない、平和な世界を守り続けるのだという強い気持ちを持ってもらいたいのだ。</p>	 <p>原爆ドーム 記念碑なのである。 世界の遺産なのだ。</p> <p>戦争は人の心の中で生まれるものである… 人の心の中に平和のとりでを築く…</p> <p>筆者の伝えたい事</p>	<p>⑫ 痛ましい姿の原爆ドームは、原子爆弾が人間や都市にどんな惨害をもたらすかを私たちに無言で告げている。 未来の世界では核兵器を二度と使ってはいけない、いや、核兵器はむしろ不必要だと、世界の人々に警告する「記念碑」なのである。</p> <p>⑬ 国連のユネスコ憲章には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」と記されている。原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための「世界の遺産」なのだ。</p>	<p>平和のとりでを築く</p> <p>大牟田 稔</p> <p>課題 筆者はどんな考えを持ち、何を伝えたいのだろうか。</p>
--	--	---	--

(6) 高学年の説明文学習の手引（平和のとりでを築く）

学習の順序		学習の仕方
1	練習教材に取り組む。	① 指示後、文末表現に着目し、練習教材文を要約する。
2	題名を読む。	① 題名を読み、何についての話かをつかむ。
3	通し読みをする。	① 分からない語句に印をつけながら読む。
4	初めての感想を書き、学習の見通しを持つ。	① 疑問に思ったこと、初めて知ったこと、不思議に思ったことなどをかく。
5	新しい漢字や語句を調べる。	① 国語辞典や漢字辞典を使って調べる。
6	音読練習をする。	① すらすら読めるように音読練習をする。
7	文章を読み進める。	① 形式段落に番号をつける。 ② 「問いの文」に「_____」（サイドライン）を引く」 ③ 形式段落の書き出しの「接続語」や「順序を表す言葉」を□で囲む。 ④ 「問いの文」「接続語」「文末表現」に着目して、意味段落を予想する。 ⑤ 形式段落ごとの「中心語句」に_____を引く。 ⑥ 意味段落に分ける。 ⑦ 段落と段落のつながりを考え、文章構成図に表す。 ⑧ 詳しく読む。 ・内容をつかみながら読む ・指示語を囲み、指示語が指すものを見つけ、置き換えながら読む。 ・「文末表現」に着目し、「事実」と「意味」を区別しながら読む。 ⑨ 文章表現の工夫を見つけ、その効果について考える。
8	要旨をまとめる	① 「筆者の述べたい事を中心」をまとめる。
9	筆者の主張に対する自分の考えをまとめ、交流し合う。	① 筆者の主張に対する自分の考えを、根拠を明らかにしながら書き表す。 ② 互いに考えを交流する中で、ものの見方や考え方を広げる。
10	筆者の主張を元に、戦争や平和をめぐる問題について考える。	① 筆者の主張を元に平和について話し合う。 ② 自分の考えを仮の養子としてまとめ、説得力を持たせる材料を集める。 ③ 集めた材料を元に、意見文として書き表す。 ④ 推敲し発信する。

この単元で身につけたい力

◎筆者の考えや伝えたい事を読み取る力

①筆者の最も言いたい事が書いてある段落を見つける。

文中の言葉に注目して見つける。…題名に使われている言葉が出ていないか。

②筆者の最も言いたい事が書いてある文を見つける。

文末表現に注目して見つける。…「」なのである。「」なのだ。」

③重要語句を見つける。

同じものが違う表現で、言い直されていないか。…平和のとりでを築くではどんな言葉が言い直されて出ているだろうか。

④主張の続きを書く。

筆者になり代わって、伝えたい事を書き続けよう。

(7)

この単元で身につけたい力

◎筆者の主張に対する自分の考えを書き表す力

①各段落でまとめた事柄に対して、自分の考えを書き出す。

②筆者の考えや主張に対する自分の立場をはっきりさせ、

考えを書く。

・筆者がこの文章を通じて読者に訴えたい事（＝筆者の主張）は何かをはっきりさせ、それについて自分はどうか考えるのか書き出してみよう。